

✠022 イスラエル人とは何者か

旧約聖書で「カナンの地」（現在のイスラエル）に住んだ、十二部族からなる民族がイスラエル人である。

つまり、神ヤハウエイに祝福を受け、「大いなる国民」となる約束（創世記 12 : 2）を与えられた族長アブラハム（アブラム、創世記 17 : 5）から数えて三代目（①アブラハム→②イサク→③ヤコブ）に当たる族長ヤコブの 12 人の息子の子孫がイスラエル十二部族である（創世記 29～30 章）。

また、「イスラエル」の地名は、ヤコブが神に命じられて改名したことから来ている（創世記 32 : 29、35 : 10）。

彼らは、アブラハムと同様、土地を持たず牧草地を求めて移動を繰り返す遊牧民だったが、飢饉のため、難民としてエジプトに下った（創世記 47 : 4）。そして、エジプト王によって奴隷とされ、強制労働に苦しめられた（出エジプト 1 章）。

そんな中、神はモーセという人物を選び、イスラエルの民をエジプトから脱出（出エジプト 3～14 章）させ、シナイ山で彼らと契約を結び、彼らに律法を与えた（出エジプト 19～24 章）。

その後、イスラエルの民は荒野を放浪してカナンの地に至る。モーセはカナン侵入の直前に死亡するが、イスラエルは彼の後継者ヨシュアに率いられてカナンの地を一気に征服し（ヨシュア 1～12 章）、くじで十二の部族に分配した（ヨシュア 13～22 章）。